

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮東中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	基礎的・基本的な知識・技能はすでに身につけている生徒も多いが、①数学の「数と式」など分野によって差が出ていること、②学力が二極化していることが課題である。そのため、①スタディサプリなどを用いて、基礎的な内容を毎回の授業で反復的に学習させ、知識の定着を図っていく。②学び合い活動などを行うことで、スローラーナーへの支援を工夫する。
思考・判断・表現	今年度の課題として、①問題文を読んだり発表や質問を聞いて答えたりすることへの苦手意識が高いこと、②発表やレポートなどにおいて、自分の言葉で表現する力が弱いことが挙げられる。そのため、教科書等を用いて、書いてあることを根拠に自分の考えを話す活動など、自分の考えを論理立てて構築する活動を行うことで読解力と表現力の向上に取り組んでいく。
主体的に学習に取り組む態度	今年度、「グローバル・スタディ」科では全学年でパフォーマンステスト実施前に評価の観点を提示したり、理科では単元別自由進度学習を一部取り入れたりとすることで、生徒自身が目標を設定し、主体的に学習に取り組むことができるような工夫を行った。次年度も継続して、さらに他教科でも取り組みを広げていき、今年度の目標である項目について全学年87%以上を目指す。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、数学・理科の「知識・技能」において、3pt以上向上させる。	⇒ 授業及び家庭学習において「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を活用し、基本的な「知識・技能」を強化する。計算や概念に関する事項の反復を行うとともに、スモールステップを意識した授業を展開し、習熟に努める。
思考・判断・表現	令和4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、各教科の「思考・判断・表現」において、3pt以上向上させる。	⇒ 読解力の視点である『つなげる』『比べる』『重ねる』読み方・考え方を生徒に提示し、意識づけをさせる。また、「オクリンク」「ムーブノート」を活用し、仲間の意見を参考にしながら自分の意見を深めさせ、より深い思考を促す。
主体的に学習に取り組む態度	令和4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の肯定的回答割合を全学年90%以上とする。	⇒ 毎時間の学習課題を明確化するとともに、各教科の授業の終わりに「本時の振り返り」の時間を設け、学習内容を確認・整理する。次回の授業の最初に前時の確認を行い、本時の学習と結びつけるようにする。

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度市学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度同調査と比較して、それぞれ数学+0.7pt、理科+2.3ptであった。数学科でワーク等を通して、計算や概念に関する事項の反復を行った成果と考えられる。	B
思考・判断・表現	R5年度市学習状況調査の各教科の「思考・判断・表現」の偏差値において、R4年度と同調査と比較して、平均1.2ptの向上がみられた。「グローバル・スタディ」科では書く・話す等の活動において、客観的に「分かりやすさ」を体感しながら表現力を伸ばせるよう工夫した。また、仲間の意見を参考にしながら自分の意見を深めることができた。	C
主体的に学習に取り組む態度	R4市学習状況調査における「学習した内容について分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の肯定的回答割合は、1年79.9%・2年92.8%・3年87.7%となった。数値としては達成したと言えるが、「④さいたま市学習状況調査結果・分析」の通り、話し合っって主体的に問題を解決する力が弱い。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析	
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。	
中1	「思考・判断・表現」において、R4年度さいたま市学習状況調査自校結果より理科+4.6pt、数学+2.2ptであった。社会と国語で2題程度、10%を超えているものもあったが、どの教科でも無解答率の割合が1%を切っていた。教科横断的に、複数の情報の中から得た情報をつなげて読んだり、比較して読んだりする読解力の向上に向けて取り組んできた成果と考えられる。
中2	R4年度さいたま市学習状況調査自校結果より、「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに、国語は+0.9pt、数学は+0.7ptであったが、社会と理科においては、数値の低下がみられた。教科での学習を身近な出来事と関連させ、自分事として事象をとらえる力が弱いと考える。
中3	道徳教育に関する項目において、肯定的な回答が市平均よりも大幅に高い反面、「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」「あなたの学校では、学級生活をよりよくするために学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。」の質問項目において、市の平均よりも自校の値が下回った。授業だけでなく学級活動等での主体的な活動に、組織的に取り組む必要がある。

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	概ね非常に良い結果であるが、国語の文脈に即して正しい語句を書く、歴史的仮名遣いを正しく読む等、基本的な語彙を扱う領域において課題がみられた。解答類型から、漢字については、覚えているが使い方で身につけていないことが考えられる。言語の使用場面を意識した学習活動を重視したい。また、古文については無回答率が高く、慣れ親しませる学習活動に取り組みたい。
思考・判断・表現	国語の「読むこと」、英語の「書くこと」の領域、数学の図形の証明において特に高い正答率がみられた。国語では的確に読み取りができており、英語では言語の働きを十分に理解し、読んだことについて自分の考えとその理由が書けている。数学の証明では、表現が十分でなく正答とならない割合は市や県の平均同等であった。教科を横断して読解力を高め、論理的に表現する指導を行いたい。
主体的に学習に取り組む態度	「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」は肯定的な回答が86.4%で、昨年度の64.3%を大きく上回り、他者との協働的な学びに意欲的に取り組めた。「学習した内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」(86.4%)の向上を目指し、より主体的な学びとなる授業実践を行う。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	R4市学習状況調査「学習した内容について分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の肯定的回答割合は、全国学力・学習状況調査で1pt以上向上した。全学年87%以上を目指す。	⇒ パフォーマンステスト等でのフィードバックを実施し、自分の学習についての振り返りができる材料を増やす。